



### 伝統工芸の結び付けから 新たな需要と供給を生み出す

「クラフテリアート」という考え方は、どんな背景から生まれたのですか。

津延 「クラフテリアート」は、クラフト・インテリア・アートを組み合わせることで、寒暖差による欧米と日本のインテリアの捉え方の違いをみてきた。寒さが厳しい欧州では、部屋は壁に囲まれ殺風景のため、足し算の発想からアートやインテリアが発達しそれが米国に伝わる一方で、わりと暖かく湿度の多い日本では、狭い家屋になるべく物を置かない引き算(ミニマル)の発想から、手作りした日用品(伝統工芸品など)を使い終えたら室内に飾り、襖を開けて風通しをはかりながら四季折々の庭をアート作品のように楽しんできました。そして近年、日本の家屋が和洋折衷になって変わることないその洗練された考え方に、欧米人から熱い視線を浴びていくことが背景にあります。

伝統工芸には作家として成立しているケースの他に、茨城県の誇る「桂離(城里町)」に見られるように、西ノ内和紙(常陸大宮市)、結城紬、西陣織(京都府)など、さまざまな地域が加わって初めて作品が

### 地域に根差した工芸やアートを 尊重する魅力的な手段



### ミック・イタヤ ビジュアルアーティスト



完成する、つまり、職人として主に素材を提供しながら維持しているケースがあります。そこで全般的な活性化を目指して、既存の伝統工芸作品・アート作品プラス伝統工芸品同士、あるいは異業種と、ミックさんのようなアーティストとのコラボによるブランディングした作品を打ち出して新たな需要と供給を生み、国内外に発信していくのがクラフテリアートの狙いです。

中島 長引くコロナ禍により、生活に彩りや癒しを求める人が増えています。そうした需要が高まっている中で、数多くある茨城の伝統工芸の中から、空間感や桂離、西ノ内和紙、きぬの染(常陸市)、水府提灯(水戸市)を中心に、本県からクラフテリアートの輪を広げていきたいと考えています。

クラフテリアートにおけるアーティストの役割をどのように考えていますか。

イタヤ 私はアメリカやヨーロッパの文化に興味があり、欧米のファッションや音楽・デザインの仕事をしたいと思っていましたが、ある時、古い日本家屋に住むことがあり、その経験が改めて日本文化に目を向けるきっかけになりました。そんな時に、幼なじみで水府提灯を作る鈴木茂兵衛商店7代目の鈴木隆太郎社長と再会し、提灯のデザインを手伝うようになり、提灯のデザインを通じて、提灯が和紙をはじめ様々な伝統工芸品で成り立っていること、携わる方々との交流を通じて私自身が昔から伝統文化・工芸のそばで生きていたことに気が付きました。私や伝統工芸士の方々はモノをつくることは得意ですが、それを販売

### 津延 美衣

美時間 代表  
エッセイスト、プランナー、デザイナー、キュレーター  
全米宝石学会GIA・G.G  
NY州立大学FIT卒業

# 伝統工芸にイノベーションを 「クラフテリアート」で世界に発信

日本の伝統工芸産業に新たな光を当てようと、関彰商事が「CrafTeriArt」(クラフテリアート)という考え方を打ち出した。  
伝統工芸の作り手にアーティストが関わることで新しい魅力を世界に広めるという画期的な取り組みだ。  
プロジェクトを推進する、美時間の代表でキュレーターの津延美衣さん、アーティストのミック・イタヤさん、関彰商事シニアアドバイザーの中島重夫さんの3人が  
伝統工芸の将来像について語り合った。



### 危機的な伝統工芸の イノベーションを関彰商事から

「クラフテリアート」は、クラフト・インテリア・アートを組み合わせることで、寒暖差による欧米と日本のインテリアの捉え方の違いをみてきた。寒さが厳しい欧州では、部屋は壁に囲まれ殺風景のため、足し算の発想からアートやインテリアが発達しそれが米国に伝わる一方で、わりと暖かく湿度の多い日本では、狭い家屋になるべく物を置かない引き算(ミニマル)の発想から、手作りした日用品(伝統工芸品など)を使い終えたら室内に飾り、襖を開けて風通しをはかりながら四季折々の庭をアート作品のように楽しんできました。そして近年、日本の家屋が和洋折衷になって変わることないその洗練された考え方に、欧米人から熱い視線を浴びていくことが背景にあります。

伝統工芸には作家として成立しているケースの他に、茨城県の誇る「桂離(城里町)」に見られるように、西ノ内和紙(常陸大宮市)、結城紬、西陣織(京都府)など、さまざまな地域が加わって初めて作品が完成する、つまり、職人として主に素材を提供しながら維持しているケースがあります。そこで全般的な活性化を目指して、既存の伝統工芸作品・アート作品プラス伝統工芸品同士、あるいは異業種と、ミックさんのようなアーティストとのコラボによるブランディングした作品を打ち出して新たな需要と供給を生み、国内外に発信していくのがクラフテリアートの狙いです。

中島 長引くコロナ禍により、生活に彩りや癒しを求める人が増えています。そうした需要が高まっている中で、数多くある茨城の伝統工芸の中から、空間感や桂離、西ノ内和紙、きぬの染(常陸市)、水府提灯(水戸市)を中心に、本県からクラフテリアートの輪を広げていきたいと考えています。

ミック・イタヤさんは、昨年暮れに関彰商事つくばオフィスで水府提灯を使ったインスタレーションを展示し、注目を集めました。展示の意図をお話してください。

イタヤ 関彰商事という企業としての空間ではなく、人々が眺めて心温まる空間にしようという構想を練りました。それを象徴するキャラクターとして生まれたのがエスキヤットとしてエスキヤットのSは、関彰商事のSで、つくば市から連想した宇宙・スペースのSです。つくばで生まれたエスキヤットが冬に帰ってきたというコンセプトを基軸に、無垢な白を基調としてインスタレーションを構築しました。

灯りを輝かせる、柔らかく、人の気持ちに寄りかかるとは、それだけでもできる限り地に根差した温かい美しさのあるものが良いと考え、水府提灯を使いたいと思いましたが、14年続いている関彰商事の歴史を考えた時、伝統と今、そして未来を表現するのにはふさわしい灯りです。この世情を少しでも癒やせる、和らげるもの一つでも多く創造することが誰かの助けになり、穏やかな日常を取り戻す一助になるとの思いで組み上げました。

現在進めている取り組みについてお話しください。

津延 1905年に創設されて以来、日米交流と在ニューヨーク日本企業人と家族の親睦を図ってきた「日本クラブ」のWEBギャラリーにおいて、水府提灯をテーマにした企画展「日本から世界へおくる灯り」を開催し、4月23日から6週間、開催して頂くことになりました。この数年コロナウイルスによるパネミックにより暗いニュースが世界的に続くなか、東京オリンピックの聖火から思いついた企画です。人類にとって不可欠な灯火は、提灯が電気によって代わりましたが、提灯作りを150年間まるまる現在に至る水府提灯の老舗「鈴木茂兵衛商店」があります。その7代目の鈴木社長はミックさんとコラボにより、提灯業界に一大旋風を巻き起こしました。それは、LEDを使用しているLEDの1の揺らぎを再現するなど、現代のニーズを最新技術と伝統が融合した造形美を表現した「すずも提灯」で、まさにクラフテリアートが目指すところです。

開催の初日、バーチャル・オンラインを行いました。鈴木茂兵衛商店の鈴木太氏製作ビデオにて、提灯全般の歴史、水府提灯・すずも



### 中島 重夫

関彰商事株式会社 シニアアドバイザー  
東京商工会議所 渋谷支部 役員  
元 セコム株式会社 顧問

企画展  
日本から世界へおくる灯り  
一地域で育まれてきた水府提灯の伝統と革新

日本クラブ Webギャラリー

バーチャル・オンライン・オープニング・セレブレーション 事前登録

提灯に至る過程、製造工程を紹介し、その後「すずも提灯」などに関し、鈴木社長とミック・イタヤさんにライブ対談をして頂きます。エンターテインメントは、世界的なマジシャンのメイガス氏にマジックを披露して頂きます。一般の方も視聴可能ですのでぜひお申し込みください。(日本時間4月23日午前8時9分、事前登録制、参加費無料)

中島 津延さんの企画がクラフテリアートに取り組みきっかけでした。こうした企画の需要があるということ、ほかの伝統工芸でも同様のことと言います。そこをプロデュースしていくことが関彰商事としての役割だと思っています。プロモーションだけでなく、販路についても関彰商事の強みである営業力と約2万社を数える多種多様な取引先に合った形で働きかけることで、伝統工芸が産業として未来に続いていく可能性を大きく広げて行くものと考えています。

現在、水府提灯と空間感のクラフテリアートの実現に向けて進めています。これまで伝統文化を介したまま作りをする動きはあまり見られませんでした。団体、民間企業、個人、そして何より作り手をつなげ、広めていく動きはわれわれの強みになり考えています。そうしたつながりが茨城を皮切りに全国へ、さらには世界中に広がっていくことが実現すべき目標です。

イタヤ 私に関彰商事のインスタレーションに関わり、ご覧になった方々の喜びの声を頂いたことで、美しいものに接することで人の気持ちが和らぐことを改めて実感しました。関彰商事がそうした芸術や文化の力を信じ、人のためにあるようにする姿は、会社の人材育成や仕事の在り方、人生の方向づけに大きく役立っているのではないのでしょうか。